

国際秩序動搖期における米中の動勢と米中関係

米国の対外政策に影響を与える 国内的諸要因

平成28年3月

はしがき

本報告書は当研究所の平成 27 年度外務省外交・安全保障研究事業（発展型総合事業）「国際秩序動搖期における米中の動勢と米中関係」研究プロジェクトにおけるサブ・プロジェクト I 「米国の対外政策に影響を与える国内的諸要因」の成果として取りまとめたものです。

2014 年中間選挙によって上下両院で共和党が過半数を占め、2015 年のオバマ政権は「レームダック」となったといわれましたが、オバマ大統領は再選を考えずに済む「フリーハンド」を手に入れ、本報告書で取り上げたように移民法改正やキューバとの国交正常化、イランとの核合意など、大統領令や大統領権限などを行使した「レガシー作り」の他、中国の海上進出・軍事費増大を前に、航行の自由作戦を開始し、中露を念頭に中期的なオフセット戦略の策定に着手すると共に、新しい通商枠組みである TPP（環太平洋パートナーシップ協定）の交渉妥結にも尽力しました。

本サブ・プロジェクト I では、2016 年選挙を視野に入れながら、こうした米国の対外政策および政治基盤に影響を及ぼしうる米国国内の諸要素に焦点を当てた研究を行いました。

本報告書に表明されている見解はすべて参加された各執筆者のものであり、当研究所の意見を代表するものではありませんが、我が国にとって最も重要な同盟国である米国の今後の対外政策に関する研究の一助となれば幸いです。

最後に、本研究に積極的に取り組まれ、報告書の作成に尽力いただいた執筆者各位、ならびにその過程でご協力いただいた関係各位に対し改めて深甚なる謝意を表します。

平成 28 年 3 月

公益財団法人 日本国際問題研究所

理事長 野上 義二

研究体制

主　査：　久保　文明　　東京大学教授／日本国際問題研究所客員研究員

副主査：　中山　俊宏　　慶應義塾大学教授／日本国際問題研究所客員研究員

委　員：

飯田　健	同志社大学准教授
泉川　泰博	中央大学教授
梅川　健	首都大学東京准教授
高畠　昭男	白鷗大学教授
西山　隆行	成蹊大学教授
藤本　龍児	帝京大学准教授
前嶋　和弘	上智大学教授
宮田　智之	日本国際問題研究所若手客員研究員
森　聰	法政大学教授
安井　明彦	みずほ総合研究所欧米調査部部長
山岸　敬和	南山大学教授
渡辺　将人	北海道大学准教授

委員兼幹事：

山上　信吾	日本国際問題研究所所長代行
前川　信隆	日本国際問題研究所研究調整部長
松本　明日香	日本国際問題研究所研究員

担当助手：　松井　菜海　　日本国際問題研究所研究助手

(敬称略)

目 次

序論：要旨

久保 文明／松本 明日香 1

第一部 対外政策の基盤となるマクロレベルの動向

第1章 米国の国内問題におけるイデオロギーの展開：政治・社会における分極化、
多文化主義

前嶋 和弘 11

第2章 米国の経済・人口動態・財政等の状況

安井 明彦 21

第二部 対外政策をめぐる政治過程

第3章 米国の対外政策における制度的機能不全：大統領権限、議会と行政のねじれ
梅川 健 31

第4章 米国政府の官僚機構と対中政策

泉川 泰博 43

第5章 米国の「オフセット戦略」と「国防革新イニシアティヴ」

森 聰 53

第6章 アメリカの通商政策における政治過程—オバマ政権下の TPP を中心に—

渡辺 将人 69

第7章 オバマ政権下における武力行使に対する世論の制約

飯田 健 81

第8章 米国シンクタンクの 501 (c) 4 団体化とその背景

宮田 智之 101

第9章 米国の対外政策におけるエスニック集団

—親イスラエル、キューバ系、中華系を中心に—

松本 明日香 111

第10章 共和党大統領候補と外交・安保論

高畠 昭男 123

第三部 政治基盤に影響をあたえる諸アクターの志向と動向

第 11 章 「オバマケア狂騒曲」とアメリカ政治

山岸 敬和 …… 135

第 12 章 米国政治における移民問題の影響

西山 隆行 …… 145

第 13 章 文化戦争による分裂：同性婚／中絶／福音派

藤本 龍児 …… 159

総論：米国の外交政策の変容と日米関係の展望

久保 文明 …… 179